



## 会長の年頭挨拶

## 「2020年開幕・・・世紀の年・・・」

謹んで新春のお慶びを申し上げます。令和2年の正月三が日は穏やかな晴天に恵まれました。かの太宰府天満宮には、例年を上回る230万人の初詣客が訪れたとのこと。また昨年まで初詣客がまばらだった令和ゆかりの坂本八幡宮にも、前年比150倍の3万人の初詣客があったそうです。(大晦日のNHK「ゆく年くる年」の中でも全国中継で映像が流れていました。)令和初のお正月、会員の皆さんはどのように迎えられましたか？

さて、新年早々ビッグニュースを1つ。昨年7月の全国公立高等学校事務職員研究大会兵庫大会で、筑豊地区事務研究委員会の皆さんに「ワークライフバランスー意識を変えるー」と題して研究発表を行っていただきました。その研究発表に対し「優秀研究として次の全国大会で表彰したい」との連絡が全国協会事務局から届きました。受賞が決まった筑豊地区研究委員会の皆さんには心からお祝い申し上げますとともに、6年間のご苦勞に対し深甚なる敬意を表します。7月の名古屋国際会議場での表彰式では、福岡県代表としてまた九州代表として胸を張って登壇していただきたいと思えます。

次に県協会の今年最大のニュースですが、やはり6月18日と19日の2日間、アクロス福岡で開催する第68回九州協議会研究大会福岡大会になろうかと思えます。「福岡らしさ」を全面に出し、「利便性」と「地域財」をフル活用し、「福岡に来てよかった。」「また福岡に来たい。」と九州各地から参加された皆さんに思っただけのような大会を目指し、大会実行委員を中心に準備を進めています。さらに本県は令和5年7月に、71年ぶりとなる第76回全国公立高等学校事務職員研究大会開催というミッションを抱えています。(その次の全国(福岡)大会は、令和45年開催の予定ですので、現会員の皆さんにとっても、最初で最後の全国大会開催になろうかと思えます。)このこともあり、今年の九州(福岡)大会では、3年後の全国(福岡)大会の前哨戦と位置づけ、予行を兼ねて「4つの試み」を盛り込んでみました。

第1の試みは「お弁当(昼食)の廃止」です。本県は、海と山の食材に恵まれ「食事がおいしい都道府県ランキング(ダイヤモンド社)」では、北海道につぐ全国2位の「グルメ県」です。それを生かさない手はなかろうと、昼食時間をピーク時からずらし「福岡県協会員お薦めのランチマップーあなたも天神・博多の井之頭五郎をー」を手に天神・博多周辺を散歩していただくことと計画しています。(大晦日の夜、テレビ東京系で「孤独のグルメ」ドラマスペシャル成田・福岡・釜山が放映され、福岡のグルメ屋台が紹介されていました。ドラマの中で主人公、井之頭五郎を演じる俳優の松重豊さんも福岡出身ですね。大会当日は博多屋台マップもご来場の皆さんに配布します。)

2つ目は「会員意見の反映」です。昨年11月に会員の皆さんにお薦めランチとあわせて勤続30年表彰者への記念品の情報提供を依頼したところ、多数の情報提供をいただきありがとうございました。県内の名産品が多数挙がる中、一番多く寄せられたのは「博多織(小物)」でした。商品コンセプトとして「福岡らしさ」に「実用性」を加え、「学校」又は「子ども」の要素を兼ねそろえた物がよいとなり、福岡市出身の童画家「西島伊三雄さん」の子ども山笠のイラスト入り博多織小物を採用させていただくことになりま

した。会場で披露できる機会がないかを検討しています。ご協力いただいた会員の皆さんには心から御礼申し上げます。

3つ目は、「講演内容の見直し」です。毎年九州大会2日目は開催県ゆかりの著名人による講演が行われてきました。福岡大会では、実務面を重視し、東京からセミナー講師を招聘します。学校事務職員の業務内容を見直し、業務効率の向上が働き方改革のヒントにならないかと、今回はここ数年、民間企業での事務効率化に向けて広がりを見せている「RPA (Robotic Process Automation)」の基礎知識を参加者の皆さんと共有したいと思っています。ちなみに今年7月30日と31日に愛知県名古屋市で開催される全国公立高等学校事務職員研究大会（名古屋大会）の第1分科会でも「RPA」をテーマに研究発表が行われます。7月の全国大会への参加を検討しておられる方は、九州（福岡）大会で、是非一度予習してご参加ください。

最後に4つ目ですが、「教育懇談会に郷土色を」です。平成29年の第65回九州（佐世保）大会を機に「九州は一つ」の合言葉の下、大会参加者による情報交換会が始まりました。今回で4回目の開催となりますが、福岡県産のお酒を酌み交わし懇親を深めていただこうと、北九州・福岡・筑後・筑豊4地区の自慢の銘酒を準備します。会場は天神スカイホール（西日本新聞会館16階）です。ホスト県としての腕の見せ所かなと思います。会員の皆さんの積極的なご参加をお願いします。

ご存知のとおり今年の7月24日、56年ぶり2度目となるスポーツの祭典「東京オリンピック・パラリンピック」が開幕します。大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある。」を掲げ、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を基本コンセプトとし、前回大会（1964）は93か国5152名の参加でしたが、今回はその倍以上の205か国12,000名以上の選手の参加が見込まれています。世界の人々に夢・希望・勇気を与えるすばらしい大会になってもらいたいと思います。奇しくもオリンピック・イヤーに九州（福岡）大会を迎えることになりました。規模も内容も異なりますが、大会運営に係わる会員の皆さんに「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を胸に、「8年に1度の九州（福岡）大会」と3年後の「71年ぶりの全国（福岡）大会」を通して、「日頃気づかなかった自分」「はじめてもう一人の自分」に出会うことを大いに期待しています。2020年いよいよスタートです。

（会長 佐伯 伸）

## 各地区活動報告

### ●北九州地区（会長 初山 文子）

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度は新事業を含め、下記の事業を実施しています。

協会の活動に際しまして、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 【実務研修会】

令和元年7月22日(月) 小倉リーセントホテル 13:25～

#### 1. 講義①「旅費について」

講師 教育庁教育総務部財務課給与係 事務主査 牟田 千恵美氏

#### 2. 講義②「社会保険について」

講師 古友社会保険労務士事務所 古友 健司氏

**【第3地区研修会】**

令和元年9月9日(月) 小倉高等学校 16:00～

各学校間での意見交換(支出・旅費の事務処理上の諸問題・意見交換事項等について)

今年度新事業として、北九州第3地区(小倉、小倉工業、小倉西、戸畑、ひびき、戸畑工業)監査支援会議終了後に、各校事務職員間で支出・旅費の事務処理に関する意見交換を行いました。

**【地区別研修会】**

令和元年9月27日(金) 小倉リーセントホテル 13:10～

1. 講演 「教育&学校現場のコンシェルジュ～フロントマン～を目指そう！」

講師 千草ホテル 企画部兼レストランチーフ 小野山 美緒 氏

“コンシェルジュ”への近道となるキーワードとして“対話”をあげられ、その“対話”を通し、人との“関係性”を作ること、ホスピタリティ(温かさ、思いやり)、しなやかマインド(何事にも失敗を恐れずに挑戦し、学び続ける努力を惜しまない心)の重要性を教えてくださいました。

2. 研修①「グループワーク」

1. 「対話」のトレーニング

2. 「発想」を引き出す&「意見交換」のトレーニング

3. 問題抽出→ヒントを導き出すコツを掴む為のトレーニングワーク

3. 研修②「全体発表」

グループワークにより、“学校事務職員”の10年後の姿を新聞形式で表現し、各班ごとにその内容を全体へ発表しました。

**【新規採用事務職員等研修会】**

(前期) 令和元年6月24日(月) 小倉リーセントホテル 9:45～

1. 講義① 地区協会理事による講義「事務職員としての基礎基本」

2. 研修① 新規採用事務職員等13名による発表「自己紹介(5分間スピーチ)」

3. 講話 「新規採用職員に伝えたいこと」

講師 小倉東高等学校 事務長 有吉 由紀子 氏

4. 講義② 地区協会理事による講義「実務の基本を学ぶ」

5. 研修②「まとめトーク」～研修を受けて感じたこと、考えたこと、日頃の思い、悩み～

(後期) 令和2年1月17日(金) 小倉リーセントホテル 13:30～

1. 研修 「お気に入りの新聞記事でコミュニケーションを図ろう。」

2. 講話 「先輩職員による講話」

気になる新聞の切り抜きの紹介を行い、その後先輩職員による講話を行いました。

**【定時制課程事務職員研修会】**

筑豊地区で開催されている定時制課程事務職員研修会に、北九州地区定時制事務職員も参加し、定時制事務のうち主に夜間給食や校納金について討議、意見交換を行い、他地区事務職員との交流を深めました。

**【事務研究委員会】**

昨年度に引き続き、協会、各委員会の今後の在り方について、若手職員を中心に構想検討し、新しい試みに向けて取り組んでいます。

今年度は、北九州第3地区（小倉、小倉工業、小倉西、戸畑、ひびき、戸畑工業）での小規模研修の実施が実現しました。

#### 【パソコン研究委員会】

昨年度1年間の活動休止を経て、今年度より研修体系を整理し、北九州第2地区（門司学園中・高、門司大翔館、小倉南、小倉商業、北九州、小倉東、小倉聴覚）で、エクセルに関する小規模研修を行いました。

今後も研修体系の整理、検討を進め、会員のニーズに沿った研修を行っていききたいと思います。

#### ●福岡地区（会長 森部 一文）

福岡地区では、研修主任の設置等により充実した組織とし、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検や情報交換等の取組を実施しました。

また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

#### 【実務研修会】

令和2年1月23日(木) 博多青松高校 13:25～15:30

講義 「クレーム対応研修について」

講師 株式会社インソース 城戸 美智子 氏

クレーム対応の基本は「心情理解」である。そのことをふまえ相手に対して表現する力や伝える力を研修を通して養うことで、事務職員の資質及び職務能力の向上を図り、学校における適切かつ円滑な事務処理体制の確立に寄与することを目的として実施しました。

#### 【監査対策点検】

本年度の定期監査現地校（11校）に対して、9月～11月の間で点検者を選考して派遣依頼を行い、学校に出向き点検を実施した。また、採用3年目職員（義務制からの転入者を含む）は、研修の一環として、点検を行った。（延べ37名）

#### 【初任者研修会】

採用1～3年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む18名が参加して実務研修等を実施しました。

〈第1回〉 令和元年7月30日(火) 福岡共同公文書館 13:00～

① 先輩職員講話「働き方・仕事・お金」

香椎高校 主任主事 堤田 智弘 氏

② グループ討議「日常業務の問題点や困りごと、それらの対処法」

3つのグループに分かれて討議し、その内容を発表してもらった。

③ 講義及び施設見学「特定歴史公文書の保存と利用等について」

福岡共同公文書館 副館長 佐藤 史文 氏

〈第2回〉 令和2年1月28日(火) 福岡農業高校 14:10～

① 福岡農業高校について説明及び見学

福岡農業高校 教諭 岡部 英紀 氏

- ② 農業高校の事務について  
福岡農業高校 主事 川崎 貴成 氏
- ③ 実務に関する研究発表（1名）
- ④ 講評（副会長）

### 【3ブロック別研修会】

定期監査等の状況について、指導のポイントやその対応など内容の確認・検討を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

- ① 日時 令和2年1月17日(金) 東ブロック 場所 福岡リーセントホテル
- ② 日時 令和2年1月17日(金) 西ブロック 場所 福岡工業高校
- ③ 日時 令和2年1月17日(金) 南ブロック 場所 太宰府高校

### 【事務研究委員会】

平成24年度から事務室が使いやすい危機管理マニュアルの作成に向けての研究を行い、平成26年度の九州大会（ホルトホール大分）で発表しています。

それ以降、状況の変化（環境整備班の完全導入等）に対応できるよう研究を進め、平成30年度の県の総会で発表を行いました。

現在は、令和3年度の九州大会発表に向けて、研究テーマの検討を行っています。

### 【地区別研修会】

令和元年8月30日(金) 福岡リーセントホテル 13:15～17:05 参加者46名

1. 講話1 「一人ひとりがかげがえのない存在として尊重される社会を目指して」  
講師 福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導班 指導主事 坂口 大樹 氏  
〔内容〕平成28年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」及び、これを受けて平成31年3月1日に施行された「福岡県部落差別の解消の推進に関する条例」について、プロジェクターを使用して解説がありました。
2. 講話2 「サイバー犯罪の現状と対策」  
講師 福岡県警本部生活安全部サイバー犯罪対策管理官 警視 川口 由記 氏  
〔内容〕福岡県警察のサイバー犯罪に対する取り組みについてご講話をいただきました。個人情報漏洩の原因及び漏洩の多い業種別割合などについてプロジェクターを使用し視覚的に解説があり、また、サイバー犯罪の情勢や犯罪の被害についても紹介され、何気なくしていることが犯罪につながるなど身近な脅威に驚かされるものでした。
3. 講話3 「ロコモティブシンドロームを予防しよう」  
講師 健康運動指導士 筑地 公成 氏  
〔内容〕ロコモティブシンドロームとは、通称で運動器症候群と呼ばれ、骨、関節、筋肉など運動器の衰えが原因で、立つ、歩くといった機能（移動機能）が低下し、そのため介護が必要になったり、寝たきりになる可能性が高くなる状態のことを言います。  
今回の参加者のうち、約7割の参加者がこの言葉を知りませんでした。  
講話の前にまず軽い運動から始まり、次に配布資料に基づいて7項目のロコモ度チェック、世界20ヵ国における平日の平均総座位時間、体力と筋力などについての講話があり、平日の平均総座位時間については、日本が一番長いということがわかりました。  
最後にまた軽い運動を行い、終了しました。

## ●筑後地区（会長 野田 さとみ）

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、監査対策の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で、支部単位で定期監査現地校の事前点検会議を実施しました。今後とも、会員の皆様の御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 【地区別研修会】

令和元年 9 月 13 日(金) 教育庁北筑後教育事務所

1. 講話 「本県における高校教育の現状と課題」  
講師 教育庁教育振興部高校教育課 主任指導主事 山口 隆嗣 氏
2. 講話 「部落差別の解消の推進に関する法律・福岡県部落差別の解消に関する条例」  
講師 教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導主事 石橋 良容 氏
3. 講習 「メンタルヘルス研修 ～いきいき健康に働くために～」  
講師 公益財団法人 福岡労働衛生研究所 公認心理師 川上 夏季 氏

1 及び 2 の講話は、ともに本県教育の現状と課題をわかりやすく説明していただきました。その後、昨年からできた国家資格である公認心理師の川上先生による「メンタルヘルス研修」を実施しました。ストレスに直面したときの自分の対処法をグラフ化したりストレス解消法を探ったりして、自分でケアする方法を持つことやコミュニケーションの大切さを実感する研修でした。

## 【実務研修会】

令和元年 9 月 19 日(木) 教育庁北筑後教育事務所

- 講話 「事務ミス防止研修」  
講師 株式会社インソース 中谷 涼 氏

ミスを防止するためには、重要性和緊急性を考え優先順位を決めて業務を行うことや備えが大切であること、組織としてはコミュニケーションを大切にする職場環境を作っていくことが大事であることを学びました。アンケートでもわかりやすかったと大変好評でした。

## 【新規採用事務職員等研修会】

- 第 1 回 令和元年 7 月 12 日(金) 福岡県立八女高等学校  
内容 ①学校事務基礎講座(パソコン演習) パソコン活用委員会
- 第 2 回 令和元年 10 月 28 日(月) 福岡県立八女工業高等学校  
内容 ①講話「新採職員に期待すること」 伝習館高校 参事兼事務長 田中 利幸 氏  
②学校事務実務講座  
(サービス・給与事務) 福島高校 事務次長 井上 美恵 氏  
(旅費事務) 三井高校 事務主査 江藤 秀雄 氏
- 第 3 回 令和 2 年 1 月 16 日(木) 福岡県立八女工業高等学校  
内容 ①学校事務実務講座  
(学校事務全般) 久留米筑水高校 事務長 金納 芳典 氏  
②体験発表 研修受講者全員

第 1 回目は、パソコン活用委員さんを講師として「Word 編」「Excel 編」の研修を実施しました。

第 2 回目は、アンケートによる希望の多かった「実務」(サービス・給与事務)(旅費事務)の研修を実施しました。

第 3 回目は、「実務」(事務全般)に関する講話後、研修受講者全員によるこの 1 年を振り返って思ったことや今後の目標等を発表してもらいました。

**【監査事前点検会議】**

5支部（両筑、久留米、八女、山三、大牟田）ごとに、10～11月に定期監査現地校に出向き、相互に事前点検を行いました。

**【事務研究委員会】**

事務研究委員会では、平成28年12月以降、『学校事務職員の現状と課題、今後の改善に向けて～ワークライフバランス実現のための仕事とのつきあいかたを考える～』をテーマに、ワークライフバランスにおける事務職員の現状とその背景を分析することで「今後の改善に向けてどのように仕事と付き合っていくのか」「どうすればより多くの事務職員がワークライフバランスを実現できるのか」について研究を進めてきました。

今年度は研究の成果を、5月15日の筑後地区事務職員協会での発表会、5月31日の県事務職員協会での発表会を経て、6月13日に宮崎市で開催された九州大会で発表しました。

大会では、今年度からの新しい取り組みとして、会場からの挙手による質問に加えてスマホによる質問もあり、活発な意見交換が行われ、盛況の内に発表を終えることができました。

研究で使用したアンケートの実施に際しまして、筑後地区事務職員協会の皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

また、事務職員協会事務局の方々には、発表までの段取りや準備等で大変お世話になりました。お礼申し上げます。

**【パソコン研究委員会】**

パソコン研究委員会では、日頃新たなパソコンスキルの発見に尽力し、その成果をメルマガという形で筑後地区の職員の皆様にお届けしております。今年度は1～2月頃にメルマガにて情報をお届けいたします。内容としましては、次のとおりです。

①「電卓の使い方」電卓機能で見落とされがちなM＋、M－、MRなどの使い方を紹介します。

②「圧縮データの名前検索」行コミメール等から取り込んだ圧縮データは従来であれば、解凍しないと検索できませんでしたがパソコンがWindows10になったことで解凍していないデータでも検索できるようになりました。行コミから一括でメールを保存している所属は、今まで過去のメールを探すときにその都度解凍して検索していたかと思いますが、その手間を省くことができるようになります。

また、7月12日に新規採用者の研修会で、WordとExcelの研修を行いました。多くの演習を織り交ぜ、新規採用職員の方々に直にExcel等を実践してもらいながら実施したところ、受講後に実施したアンケートでは全受講者に「有意義だった」との感想をいただくことができました。今回の研修がパソコンへの苦手意識を取り除く一助となれたのではないかと考えています。

パソコン委員会が今までに作成したExcel等のデータを行コミフォルダに保存しておりますので、お時間があるときに、覗いていただけたら幸いです。保存場所はつぎのとおりです。お役に立てるものが眠っているかもしれません。

K：¥15 教育庁¥③学校¥998 県立学校事務職員協会¥03 筑後地区¥06：パソコン研究委員会  
¥筑後地区パソ研 テンプレート倉庫

## ● 筑豊地区 (会長 倉井 修)

筑豊地区は 16 校の学校で構成されており、学校教育活動の充実・発展に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。



## 1. 新規採用職員等研修会

- (1) 第 1 回 令和元年 8 月 23 日(金) イイツカコミュニティセンター
- ① 新規採用職員等スピーチ
  - ② 先輩事務職員講話 嘉穂特別支援学校 事務主査 矢野 大輔  
鞍手竜徳高等学校 主任主事 藏内 裕樹
- (2) 第 2 回 令和元年 12 月 12 日(木) たがわ情報センター  
パソコン研修 (エクセル・ピボットテーブルについて)  
(株)クリエイティブジャパン 岡本 小百合 氏
- (3) 第 3 回 令和 2 年 1 月 10 日(金) イイツカコスモスコモン
- ① 新規採用職員等スピーチ 「学校事務職員として今年度を振り返って」
  - ② 先輩事務職員講話 嘉穂高等学校 主事 石橋 俊明
  - ③ 実務研修 旅費事務 東鷹高等学校 主任主事 野見山孝義
  - ④ 講義「ワークライフバランスについて」・グループ討議  
直方特別支援学校 事務長 佐々木 志津子

## 2. 業務担当別研修会 令和元年 8 月 23 日(金) イイツカコミュニティセンター

各校の事務処理等について担当者同士で情報交換をしたいという意見があり、今年度から始まった研修会です。今年度は授業料・校納金と人事給与をテーマに資料を持ち寄り、各校担当者が各校の状況や事務処理方法について意見交換をしました。

## 3. 地区別研修会 令和元年 9 月 20 日(金) イイツカコミュニティセンター

- (1) 説明 「部落差別の解消の推進に関する法律について」  
講演 「人権・同和教育について」  
人権・同和教育課指導主事 田丸 めぐみ 氏
- (2) 研究協議 「事務職員に求められるスキル～折衝力・交渉力～」
- |     |         |        |       |
|-----|---------|--------|-------|
| 発表者 | 鞍手高等学校  | 主事     | 櫻井 祐介 |
|     | 嘉穂東高等学校 | 主任主事   | 西山 真美 |
|     | 西田川高等学校 | 事務次長   | 木下 美佳 |
| 助言者 | 嘉穂高等学校  | 参事兼事務長 | 藤田 益彦 |

3 人の発表を受け、各階層を 3 班に振り分けて協議を行いました。若い世代がそれぞれの意見を述べ、経験豊富な世代から貴重なアドバイスを受けるなど活発な協議となりました。発表を元に話題が広がり、業務に活かせるヒントや意見が出されました。

## 4. 定時制課程事務職員研修会

今年度も年間 4 回開催し、筑豊地区定時制課程 4 校の事務職員が集まり、定時制事務のうち主に夜間給食や校納金について討議、意見交換を行いました。

**各研究部報告****●事務改善委員会（委員長 木下 賢司）**

## 1. 令和元年度の活動

平成27年度から事務改善委員会は、次のような活動を継続して行っています。

本委員会の方向性として求められている調査、研究、文書のうち、文書に焦点を当て活動を進めており、その内容は、『業務に関連する通知文書の収集、PDF化及び保管を行い、会員向けのデジタルアーカイブズ（古文書館）を構築し、同時に保管する』というものです。

県からの通知文書を集約し、会員がいつでも閲覧できるようになれば、我々が日々の業務を行う上で効率化にもつながっていくと考えます。

対象となる文書ですが、すべての文書となると、収集分野、範囲、作業方法などで業務量が多大であることから、「教育関係者必携」、「県立学校事務提要」、「教育関係通達集」、「校務運営に関する集録（教頭協会編集）」などに文面そのものが掲載されているものを除き、それ以外の文書を収集対象としています。

まず手始めとして、「県立学校事務提要」（以下「提要」という。）に根拠通知として本文右欄外に掲載されている県通知文書の中から、文書番号、タイトル等のみで文書の中身そのものが掲載されていないものを紙ベースで収集し、これらをPDFに変換して、電子データ化を図っていくという地道な作業を行っており、収入編・支出編・庶務編の3つを手掛けました。

今年度は提要の管財編について、データ（紙、電子）の有無を確認中です。しかしながらこれまで手がけた収入編、支出編や庶務編も含め、未だに見つからない文書も多く、完成に至っておりません。

また、これをどのように発信していけば会員が利用しやすいか、情報委員会からの支援を受けながら検討を行っているところです。完成すれば、提要を補完できるものとして、業務の一助となると確信しておりますので、是非本委員会へのご意見ご要望等を各地区の委員へお寄せください。また、我々の手元のない通知文書も多々あり、文書の提供など照会の際は御協力くださると助かります。

今後とも当委員会へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 2. 活動状況

(1) 第1回 令和元年10月16日(水) 場所：福岡リーセントホテル

今年度活動の検討、今後の取り組み

通知文書の収集分野、範囲・・・県立学校事務提要管財編

(2) 分野ごとに担当者を割り当て、管財編のほか文書の収集及び電子データ化を行う。

(3) 第2回 令和2年1月下旬予定 場所：福岡リーセントホテル

データ作成の進捗状況について

検討及び資料収集の整理、各学校への照会検討

**●事務提要委員会（委員長 吉田 明広）**

事務提要委員会は、今年度も提要4編の追録原稿の作成を行っております。なお発行については、2年度当初の発行を予定しております。

6月17日、第1回県委員会を福岡リーセントホテルで行い、提要4編の地区別担当箇所、及び就学支援金等マニュアル追録の方針決定、役割分担を決め、活動を始めました。

「提要4編」については、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。

作業は各地区順調に進み、8月22日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り集約作業を行い、9月12日、修猷館高校にて追録原稿の再点検を行いました。9月20日、財務課予算係へ追録原稿のチェックを依頼し、財務課予算係から、教育庁各主管課へチェック依頼を行っていただき、関係各課のご理解、

ご協力のもと、1月中にチェック済み追録原稿が戻り、追録原稿再チェック作業を行い、その後、業者に追録原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。

「就学支援金等マニュアル」については、e-shien や S-Gate の導入等により現在の状況でマニュアルを作成しても活用が見込めないため、制度が落ち着くまでは更新を休止することにしました。そのため、K: ¥15 教育庁 ¥③学校 ¥998 県立学校事務職員協会 ¥22 就学支援金等マニュアル ¥平成 31 度就学支援金・奨学給付金に係る資料（県立学校）に財務課からきたメールや文書を掲載することにしました。ご活用ください。

「文書分類表」の更新については、3月初旬には、行コミメールで各学校に配信できるようにいたします。

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。（スマートページ > G 教育庁のフォルダにあります。）皆様、大いにご活用ください。

「事務提要ライブラリー版」については、業者からの追録が出来き次第、更新出来るよう頑張っていきます。

さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### ●情報委員会（委員長 稲田 諭）

今年度は従来の班別研究からいったん軸足を変え、「成果物を残す」ことを目標に「事務提要というナレッジの幹に改善委員会が収集した通知文アーカイブにより枝葉を補う」プロジェクトに情報委員会として取り組みました。情報委員会の役割は「①事務改善委員会が収集した通知文書の行コミライブラリーへの収容」「②収容した通知文へのインデックス（事務提要の目次に準拠したスマートページ）の作成」です。慣れない作業で暗礁に乗り上げかかったこともありますが、委員会内外の皆さまのご尽力のおかげで、まず「庶務編」「支出編」のβ版をリリースするところまで漕ぎ着けました（本稿出稿時点）。

また、平成 29 年度から継続している「福岡県給与関係例規集の行コミライブラリー収容」も並行して行いました。以上 2 つの取り組みは、情報政策課が業務上のインフラとして整備している「全庁ファイル共有システム」「行政コミュニケーションシステム」の目的・利用ルール・容量・使い勝手等を見極め、自分たちでより良いリファレンスを作り上げていく継続的な営みと位置付けています。

県内外に対し情報発信の場として設けている協会ホームページについては、委員間でノウハウを継承し、今年度の内容に更新し協会だより（前号）を掲載しました。今号も発行と同時に掲載する予定です。併せて、3 月以降はいよいよ令和 2 年度九州研究協議会研究大会に向けての情報発信を行っていくところです。

情報・パソコン関係の研修については各地区の委員会（部会）主体で行っていますが、受講対象である事務職員個々の情報スキルにかなりの差があり、多彩なニーズに対応した研修の企画が困難であることから「(受講者の多くに) 実のある研修」のハードルが高く、実施に二の足を踏んでいる地区があるのが現実です。個別には「パソコン研修をやってほしい」との声は聞かれますが、求められている内容をうまく集約できるか、集合研修として成立するのか図りかねている、ということです。ある地区では一つの策として、特定の職員のニーズを把握し、少人数短時間で「参加者のうち 1 人には必ずヒットし、かつ無為な時間を過ごす受講者が少ない」小規模研修を試行しています。

冒頭で報告した「行コミ上の通知文集（事務改善委員会とのコラボ企画）」は緒に就いたばかりです。内容の充実はもちろん、毎年（以上の頻度）でのメンテナンス・改善により活きたコンテンツに成長す

るものと考えています。泳がないと死んでしまうマグロと同じです。会員の皆さまには、こういったコンテンツやパソコン研修などへのご意見ご提案をいただき、それらを受け皆さんに還元できる研究を進めていきたいと思っています。今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

### 中堅事務職員研修会報告

開催日：令和元年 11 月 22 日(金)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

筑紫中央高等学校 事務次長 木下 裕二 (開会式及び講演)

開会式では日程説明に続き、全国公立高等学校事務職員協会会長の菊地隆氏が挨拶の中で、次世代のリーダーとして後輩の育成や全体を見渡せる力を養い、他の職員との連携が取れるよう、コミュニケーションの能力を高めていただきたいと、研修の目的を話されました。

引き続き、アムニカ人財研究所代表の柿沼良太氏による「イマドキ世代の後輩育成～働きやすい事務室の構築～」との演題で講演が行われました。これは、コミュニケーション能力アップを目指した講演ですが、柿沼氏はそれだけではなく幅広い研修を行っており、配付されたプロフィールによると「もう一度受講したい講師」との記載がありました。

研修では、自分自身が言いたいことが言えなかったことや、言い過ぎてしまって雰囲気が悪くなったことを書きだし、アサーション（自分も相手も大切に表現方法。さわやかな自己主張のこと）スキルを身につけることの大切さを確認されました。アサーションは相手を思いやりつつも、きちんと自分の意見を伝えることで、言えないことでストレスを溜めるのではなく、さわやかな関係を築くもので、職務やプライベートでの円滑なコミュニケーションに役立つとのことでした。

また、からだ語るアサーションということで、アメリカの心理学者アルバート・メラビアンの言語と非言語（表情や態度）の情報が食い違っていた場合、どちらの情報が相手によく伝わるか、という実験によると、言語情報（言葉自体の意味、話の内容）7%、音声情報（声の高低、大小、強弱、スピード、イントネーション）38%、外見の情報（表情、動作、立ち振る舞い、服装、メイク）55%となっており、非言語のコミュニケーションも非常に重要であるとの結論でした。

アサーションは習ってすぐ身につくものでなく、自己分析と他者分析、自己受容と他者受容の土台があり、技術を習得し実践するというように、時間がかかるのもだという話があり、午後のグループワークに続いていきました。

戸畑工業高等学校 参事補佐兼事務次長 相部 和子 (グループワーク)

午後から、「イマドキ世代の後輩育成～働きやすい事務室の構築～」と銘打ってのグループワークが行われました。中堅世代のメンバー男女6名で、まず自己紹介から始まったのですが、講師から出された条件は、「〇〇県の何某です。」に始まり、その後の「実は、私…」と続く自己紹介をしてください、というものでした。「実は…」と続く自分自身のことを話すには、自分自身をきちんと理解し、かつ、見た目からはわからない、もしくは意外性のあるコメントが求められる気がして、自分にとってはハードルの高い条件でした。「孫がいます」という40代前半に見える男性や「空手をやっています(しかも極真)」というオシャレで細めの女性など、個性あるメンバーでグループワークはスタートしました。

ストレス社会ともいえる現代、その中で、他人とうまくかわりながら仕事をするために必要なスキル、それこそがアサーション。自分の意見をきちんと伝えながらも相手の意見にも耳を傾け、自分の価値を正当に感じながら、ストレスの溜まらない考え方ができるようになることこそが重要とのことでした。さわやかな自己主張と訳されるアサーション、ここを目指すためにはまず「自分を知る」ということで、

自己分析したのですが大きく分類すると3タイプ。言いたいことがあっても自分が我慢する「ノンアサーティブ（非主張的）」、言いたいことははっきり言うが、相手を軽視しがちな「アグレッシブ（攻撃的）」、安易な妥協はしないが無理強いもしない「アサーティブ（調整）」。基本アサーティブであることが、安定した精神状態を保つことができそうです。

朝家族から郵便物の投函を頼まれたが自分が忙しかったためつい忘れてしまった。家族から夜、大事な郵便物で今日の消印が必要だったのにと責められた場合、あなたは？という設問でグループ討議したのですが、責められたことに対して謝りすぐ解決策を模索する人、大事な郵便物なら自分で投函するもしくは大事であることを念押しするべきという意見、いろいろな意見がでて、感情にとらわれたもの、感情を抑えての言動など考えさせられました。

良好な人間関係を築くのに必要なもの、それは感情の適切なコントロールであり物事をマイナスの感情でとらえず、「〇〇すべきだ、いつも〇〇だ、〇〇してはいけない」という感情が芽生えたときは、一度立ち止まってマイナスな感情にとらわれたものでないか考えてみる必要があるそうです。生きていく上で、思いどおりにならないことは多々あります。だからこそ、思いを伝えることがとても大切であると教えられました。他県の方と交流しながら、コミュニケーションという誰にとっても大事な課題について考える機会をいただけて感謝しています。ありがとうございました。

#### 直方特別支援学校 事務次長 本田 慎悟（グループワーク）

午後からのグループワークは、「イマドキ世代の後輩育成」～働きやすい事務室の構築～と題して班別での事例演習でした。私の班は、本県を始め千葉県、愛知県、広島県、鳥取県から男女3名ずつ、年齢層も20代から50代と幅広く、いつもの事務職員協会の研修会とは雰囲気は異なりました。班内での最初の様子は、多少、不安を感じながら固い中でも、それぞれが自己紹介を行いました。その後、研修が進むにつれ凍った氷が解けていくかのように様々な意見が飛び交い、笑いも交えた形で他県の実情も伺い知ることが出来、大いに盛り上がりを見せました。日々の人間関係の中でコミュニケーションを取ることの重要性、また、ストレス要因の大部分を占める人間関係がスムーズに行けばメンタルヘルス対策にも有効だと感じたところです。

また、研修の中で初めて耳にする用語がいくつか出てきました。アサーション（自分も相手も大切に表現方法、さわやかな自己主張）、バーバルコミュニケーション（言葉による情報伝達）、ノンバーバルコミュニケーション（表情や態度による情報伝達）等、また、コミュニケーションの表現方法について、その場の状況、相手によって変化する、例えば職場とプライベート、相手と自分との関係性、話の内容によって様々であるということ。アサーティブであることは、自分の軸となり、安定した精神状態にいるために役立つということ、家族や友人、職場の仲間等大切な人との良好な関係を構築するには、適切な感情のコントロールが重要であると講師の先生がおっしゃっておいりました。

このような内容を自分自身に置き換えて考えた時に、相手や物事に対しての考え方、行動を振り返る良いきっかけとなり、是非、現場で実践し活かしていきたいと思いましたし、また今回、研修に参加する機会を与えていただきました事に対し深く感謝申し上げ報告とさせていただきます。

#### 朝倉東高等学校 事務次長 野美山 雅晴（文部科学省講話及び閉会式）

文部科学省講話では、文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付 参事官補佐 酒井啓至 氏より「高等学校教育改革の動向について」と題し、文科省が進めている高校改革についての講話があった。要旨は、以下の通り。

現在文科省は、各学校現場の「主体的・対話的で深い学び」を進めている。一方的で教え込みの授業ではなく、生徒と対話しながら生徒の資質能力を育成し、対話をしながら生徒が主体的に学んでいくように変えていかなければならない。

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会である「Society 5.0」という言葉が学

校現場に広がっている。「Society 5.0」においては、「一斉一律の学校」「同一学年集団の学習」「学校教室での学習」が変わっていく。高等学校については、より改革が必要である。7割が普通科で、多くの生徒は第2学年以降、文系・理系に分かれ、特定の教科については十分に学習しないという傾向も変わっていかなければならない。

教員の時間外労働が非常に大きな問題になっている中で、文科省が変形労働時間制の導入、勤務時間の上限ガイドラインを指針として定めているが、働き方改革で教員の勤務時間を減らした場合、どこがそれを担っていくのか、という議論が大事である。また、学校が抱える課題は多くあり、文科省は定数改正を考えているが、それぞれの学校が抱えている課題を考えていかなければ、長時間労働の状況は変わらないのではないかと。

令和4年度入学生から導入される新しい学習指導要領で重要視されている「社会に開かれた教育課程」を実現するため、学校と地域をつなぐコーディネート機能が必要となる。学校にコーディネーターが導入された際には、事務職員の役割も大きくなっていく。事務職員とコーディネーターとの役割分担が、今後議論になっていく。

### 令和元年度教職員等中央研修(第3回事務職員研修)報告

開催日：令和元年10月7日(月)～10月11日(金)

会場：独立行政法人 教職員支援機構

築城特別支援学校 事務次長 磯邊 敬子

令和元年10月7日(月)～10月11日(金)にかけて、令和元年度教職員等中央研修(第3回事務職員研修)が、茨城県つくば市にある独立行政法人 教職員支援機構で開催され、福岡県から3名の事務長と共に参加させていただきました。全国から校長52名、事務職員112名が参加し、一部研修は校長と事務職員合同で行われました。

今回の研修は、主にマネジメントに特化し、学校組織マネジメント、コミュニティ～、スタッフ～、財務～、リスク～、タイム～、スクール～を学び、最終的に学校改善プランを設計するというものでした。一部内容を簡単に御紹介します。

#### 「学校組織マネジメント」

国土舘大学 教授 北神 正行 氏

中教審の答申を受け平成28年1月「次世代の学校・地域」創生プランが策定された。内容は、答申の内容の具現化を目指し、「社会に開かれた教育課程」の実現や「地域と共にある学校」への転換など、次世代の学校と地域が一体となった体系的な取り組みを進めていくための具体的な取組施策と改革工程を示したものとなっている。

それに基づき、学校では、子どもたちに対する「学校教育の質保証」を目的とした教育改革、学校改善を行う必要がある。学習指導要領改訂による「学力の質」保障(カリキュラム・マネジメント)、その教育を担う教員制度改革による「教職員の質」保証(スタッフ・マネジメント)、学校の組織や運営の在り方の改革による「経営の質」保証(スクール・マネジメント)、この3つの領域をトータルシステムとしてマネジメントしていくのが「学校組織マネジメント」の考え方である。学校教育目標とそれに基づく学校経営計画を達成するため、学校内外の資源(人、物、金、情報、時間、ネットワーク)を活用し、教育活動のPDCAのマネジメントサイクルに一定の成果と効率をもたらす組織的・能動的活動であり「学校教育の質保証」に向けて学校の教育力・組織力の向上を図る取り組みである。

学校組織マネジメントには3つの視点が必要である。

視点1は、「変わる」「変える」。環境の変化に適応できず絶滅した生物のように、環境の変化に適応できない組織は衰退していく。「上手くいっているから変える必要がない」ではなく「上手くいっている、余力がある今だからこそ変える」という発想を持つこと。視点2は、「見つける」。学校を「変える」には、解決すべき課題を「見つける」必要がある。学校の強みと弱みを見つけ、強みを生かす、また弱みを強みに変える方法を工夫すること。視点3は、「つなぐ」。これまでの学校は個の教職員の頑張りにより支えられてきており、組織としての機能が十分に果たされてきたとは言えない。だが、それでは学校が支えられなくなってきた。今後は、個に頼るのではなく、組織として持てる力を最大限発揮していく必要がある。そのためには、「教職員と教職員を」「教職員と保護者を」「教職員と地域を」「保護者と地域を」つなぐこと。

その3つの視点を持って具体的な学校改善ビジョンとそのための戦略（プラン）を設定し、学校内外の資源を活用し、組織を通して目標を達成する役割こそが、求められるリーダーシップである。この研修受講者が所属に戻ってからの認識・行動の変容が、組織に新たな活動が生まれるという変化をもたらす事を期待します、と1日目午後の研修をまとめられました。

この5日間の研修で、専門の一流の講師陣から、多くの新たな貴重な知識を伝授していただきました。また、全国から集まった同志のような事務職員仲間と毎日議論を交わし、驚きや高揚感で充実した時間を過ごす事ができました。この研修で学んだことは、自らを媒介にして、これから現場に伝播・還元していくことが重要なのだという意識を強く持ち、今ある課題、またこれから直面するであろう課題に取り組んでいこうという新たな心構えができました。このような貴重な研修に参加する機会をいただき、改めて皆様に心より感謝申し上げます。

